

< 2020年度事業報告書 >

【概況】

加盟団体各位、協会関係者の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染対策を講じつつ、東京水域における当協会の活動再開・継続に取り組んでいただきましたこと、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

ご承知の通り、今春から感染が拡大した新型コロナウイルスは国内外のスポーツイベントから学校・企業・地域単位に至るスポーツシーンにおいて、これまでの日常からボート競技を一時的に奪ってしまいました。その後、当協会では、プロスポーツや他競技の活動再開状況や日本ボート協会と大会開催について情報交換を繰り返す中で、「自粛」⇒「感染予防対策」「事業再開・継続」に取り組んでまいりましたが、当協会も、下記事業報告記載の通り、各本部ともに予定されていた事業の中止や縮小を余儀なくされました。

しかしながら、東日本新人選手権・谷古茂盾争奪マスターズ・小学生交流レガッタ（競技・普及本部）、海の森水上競技場ボート教室（普及本部）、海の森強化練習会（強化本部）、事業継続に必要な各種補助金申請（管理本部・事務局）など、この状況下においても、関係各位の皆様の尽力により、一定の成果を得られたことは来期に繋がるものと期待しております。

一方、今年度は各本部の活動が縮小・限定されたことで、例年事業実施上、支障となっていた台風や落雷などの気象問題や熱中症対策は大きな課題にはなりませんでした。来年度はこれらに加え、感染症対策が最大の懸案事項となるので、当協会におきましても、「with コロナ」として、様々な対策を日常活動に円滑に取り入れ、それら実現するための人員とコストの対応も念頭に置くとともに、予定されている2020東京オリンピック・パラリンピックに、地元競技団体として出来る限りの協力をしなければならないものと思料します。

各本部の事業報告は以下の通りです。

1. 競技開催事業

別表1の通り競技会を開催した。

2. 普及事業

・今年2月に発生した新型コロナウイルス感染の拡大防止に協力する為、7/19 予定の第4回東日本マスターズ競漕大会の開催を中止した。一方、9/26,27 予定の第20回谷古茂盾争奪マスターズ競漕大会並びに第10回小学生交流レガッタは新型コロナ禍の為、9/27の1日間と規模を縮小したものの、感染防止措置を施し、実施した。

・第20回谷古茂盾争奪マスターズ競漕大会は男子エイト12クルー、第10回小学生交流レガッタは2クルーと前年に比べエントリー数が減ったが、晴天の下、熱戦が繰り広げられ、戸田ボートコースでのレースを楽しんだ。

詳細は別表2のとおりである。

・ボート競技の底上げと競技人口の増大を目的として、従来より多摩川、東大島、水元、日本橋川、東墨田の都内5拠点を中心にボート教室、各水域のローカルレガッタ、マシシロイイベントを展開してきたが、今年度は新型コロナ禍でほとんどの拠点で中止を余儀なくされたが、一部において感染防止措置を施し、実施した。

詳細は別表3のとおりである。

- ・今年も中学生の全国大会は3大会の内、2大会は新型コロナ禍の為、中止となり、唯一秋に予定されていた全国中学生新人選手権競漕大会は代替大会として各地でのオンラインエルゴ競技会に変更され、各々の地域で水上ではなく、エルゴで技を競った。
尚、東京地区（横浜含む）は都立日本橋高校のトレーニングルームで行った。
- ・新型コロナ禍により、東京オリンピック・パラリンピックが1年延期され、新設の海の森水上競技場のPRも兼ね、同施設管理者主催のボート教室開催に協力した。11/1,11/15の2日間実施され、(体験者数48名)晴天微風の好コンディションの中、体験者たちは、新コースでのRowingを暫し楽しんだ。

3. 強化事業

- ・今年度は、新型コロナウイルスの影響で鹿児島国体が延期となった。その決定を受けて、国体東京都少年・成年の予選会は中止となった。
- ・国体強化で予定していた国体強化遠征・強化試合も中止となった。
- ・国体の強化事業として11月21~23日に海の森での国体少年の練習会を実施した。練習会では東京都の実業団チーム（明治安田生命とNTT東日本）と一緒に水上練習やエルゴ指導を受け、国体少年の選手にとって良い経験をすることができた。
- ・トップアスリート事業11期生については専門プログラムを実施。
- ・(公財)東京都体育協会の受託事業として第11期トップアスリート発掘事業（男子1名、女子3名）の中学三年生の指導を6月から12月まで月2回程度の練習会と第29回全国中学校新人競漕大会（オンラインエルゴ競技会）に出場した。

4. 審判部事業

- ・現在A級6名、B級9名、C級107名（参与2名）が所属しており、以下の通り派遣した。
 - (1)東京都ボート協会主催レースへの当協会審判従事者数
 - 9月22日 関東高校選抜予選 19名
 - 9月27日 東日本新人選手権 21名（埼玉1名受入）
 - (2)関東ボート連盟主催レースへの当協会審判派遣者数
 - 11月7-8日 関東高校選抜 16名
 - (3)日本ボート協会主催レースへの当協会審判派遣者数
 - 9月17~22日 全国高校特別大会(大阪) 1名
 - 10月8~11日 全日本選手権(戸田) 20名
 - 10月22~25日 全日本学生選手権(戸田) 16名
 - (4)他県主催レースへの当協会審判派遣者数
 - 宮ヶ瀬レガッタ(神奈川)1名 名古屋レガッタ(愛知)1名
 - 高校選抜近畿予選(大阪)1名 関西学生秋季選手権(大阪)9名 計延べ12名
- ・4月から競漕規則が大きく改訂された。事前に講習を受けられなかった審判については大会開始前に個別の講習を実施した。
- ・新型コロナの状況にも関わらず、東京都ボート協会主催レース2試合については20名前後の審判が集まり、大会運営に支障はなかった。

- ・日本ボート協会主催レースに、新型コロナの関係で他県からの審判が集まらず、日本ボート協会より当協会審判部への応援要請を受けた。通常日本ボート協会主催大会への派遣は5名程度であるが、今回は全日本20名、インカレ16名と東京都ボート協会主催大会並に派遣することができた。
- ・C級試験は新型コロナの関係で後期は実施しなかった。

5. 事業報告の付属明細書

2020年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。